

例題

次の文章を読んで、あとの問いに答えなさい。

陶のブローチもきれいだったけれど、知子のオルゴールは理子がこれまで見たことがないほど、すてきだった。知子に貸してもらい、そつとそつとネジを巻いていたのに、落っこしてしまつたあの夜！ぼっきり折れたレースドールのうでと首！ 知子の悲鳴……。

1 思い出すだけでも、ふるえてしまう。

大失敗のおわびに理子ができたのは、自分がもらったイギリス製のブローチを、知子にあげることであった。白い大理石みたいなユニコーンには、もう「ストーン」という名前をつけていたのに。

「いまではわたしのものは、絵のストーンだけ」

理子は小さい声でつぶやいた。顔が赤くなった。姉のものになったブローチに、まだ未練を持っていることが、はずかしかった。草原をギャロップで駆けるストーンの白い体、真っ青な一角が、急にまぶしくなった。

ユニコーン（一角獣）は、伝説上の動物だ。体は馬、尾はライオン（ブローチと知子の絵では馬のしっぽ）、ひづめはシカの形を持ち、ひたいには、長い一角が斜めにつき出し、音楽と清らかな少女が好きだといわれる。

「小さなブローチから、こんなに生き生きしたストーンを描くなんて、さすが知子姉さん……あれっ？」

2 うっとりながめていた理子は、目をしばしばした。ストーンのたてがみが、ふわふわと動いた気がした。（西沢杏子『青い一角のギャロップ』）

めあて

- ① 人物の行動や会話・情景から心情を読み取る。
② 人物の心情の変化をおさえよう。

1

線①「思い出すだけでも、ふるえてしまう」とありますが、このときの「理子」の気持ちとしてよいものを次のうちから選び、記号で答えなさい。

- ア 次はもうやらないようにしようと、反省する気持ち。
イ もう少し気をつけるべきだったと、後悔する気持ち。
ウ なんてことをしてしまったのかと、動揺する気持ち。
エ 同じことが起こるかもしれないと、心配する気持ち。

2

線②「うっとりながめていた理子は、目をしばしばした」とありますが、このときの「理子」の心情の変化としてよいものを次のうちから選び、記号で答えなさい。

- ア 絵に夢中だったが、長いこと見すぎてあきてしまった。
イ 絵に感心していたが、欠点にも気づきがかかりした。
ウ 絵に見とれていたが、ふだんと違う様子が気になった。
エ 絵に心をうばわれていたが、異変を感じわねに返った。

1 解説

登場人物の心情（気持ち）をつかむことは、物語文を読み進めるうえでとても重要です。

線①の「理子」の行動と様子

↓何かを「思い出す」だけで「ふるえてしまう」

「ふるえる」は、ものが震動する意味もありますが、「はげしい感情のために心身がふるえる」様子も表します。

では、「理子」はどんなできごとを思い出していたのでしょうか。

線①の直前の段落に着目してみましよう。

姉の「知子」からオルゴールを貸してもらった。

ネジを巻くとき落としてしまい、レースドールのうでと首が折れてしまった。

知子の悲鳴……

知子の悲痛な気持ちが表れていますね

この「大失敗のおわび」に「理子」は自分のブローチを「知子」にあげています。オルゴールは、もうとりかえしのつかないことになってしまったのでしょうか。ことを重大にうけとめている「理子」の気持ちが読み取れます。

答え ウ

心情のとらえ方 行動や会話のほか、情景、人物の気持ちをそのまま表していることばなどにも着目する。

2 解説

登場人物の心情の変化をとらえるには、気持ちを表すことばや、人物の様子や情景の移り変わりなどに着目することが大切です。

線②の「理子」の様子

・「うっとりながめていた」→「目をしばしばした」

「うっとり」は、美しいものなどに心をうばわれて、ぼうっとしている様子を表すことばです。

次に——線②の前後の文に着目してみましよう。

直前の文の最後に「……あれっ？」とあり、直後の文に

「（絵の）ストーンのたてがみが、ふわふわと動いた気がした」とあります。

動くはずのない絵が「動いた」と感じています。

このため、絵に見とれていた目を「しばしば」させます。「しばしば」は、しきりにまばたきをする様子です。

何かをよく見ようとするとときや自分の目をうたがっているときなど、こうすることがありますね。

答え エ

人物の心情の変化のとらえ方 出来事をおさえた上で、人物の様子や情景の描写などに着目する。

1 次の文章を読んで、あとの問いに答えなさい。

ミルじいさんはまずしい船乗りでした。若いときからつぎつぎに外国の旅をつづけてきましたので、もういまではたいがい国は知っているのです。ところがただ一つ日本を知らなかったのです。いつもインドを通過して支那へやってくるじいさんの船は、上海で用をすますと、そこから故郷のフランスのほうへかえっていつてしまうのです。

「日本へいつてみたいな。そしたら、もう船乗りをやめてもいい。」

じいさんは長いあいだ、海のむこうにある桜のさく小さな島国を、絵のように美しく目にうかべながら、心につぶやくのでした。

このじいさんが、ある日船長から、こんどの航海には日本までいくことになった、と聞かされたときのよろこびようたらありませんでした。

「セルゲイ、おじいさんはね、日本へいくんだよ、日本へ。おまえには、なにをおみやげに買ってきてやろうね。」

じいさんは、その晩家へかえると、まごのセルゲイをつかまえて、よっぱらいのようになくともいくともいふのでした。

「ぼく、大将の着た赤いよろいがほしいなあ、かぶとに龍のとまった。」

セルゲイはいいました。いつか絵本で、日本の大将が、まえだてのついたかぶととおどしのよろいを着て、戦争にいくいさましい姿を見たことがあったからです。

「よし、よし。」

じいさんはにこにこしていいました。

ミルじいさんは、船が長い波の上の旅をつづけているあいだも、毎日のように受け持ちの甲板のそうじをしながら日本の港へついた

問1 線①「日本へいつてみたいな」とありますが、ミルじいさんは日本をどんな国として思っていますか。「〇国」の形で、文中のことは使って十字で書きなさい。

問2 線②「もう船乗りをやめてもいい」とありますが、そう思うのはなぜだと考えられますか。よいものを次のうちから選

び、記号で答えなさい。

ア 故郷を離れ日本にずっと住み続けたいから。

イ 願いがかなったら思に残すことがないから。

ウ 日本には船乗りよりもよい仕事があるから。

エ 長い間船乗りの仕事をし続けて疲れたから。

問3 線③「よっぱらいのように」とありますが、このときのミルじいさんの気持ちとしてよいものを次のうちから選

び、記号で答えなさい。

ア 口がうまく回らないほどおどろいている気持ち。

イ おみやげを買わずにうまくごまかしたい気持ち。

ウ 何度も同じことをいうほど大変うれしい気持ち。

エ 思い通りにならなくて、少しもどかしい気持ち。

問4 線④「百五十円です」とありますが、どんな言い方だっ

と答えられますか。よいものを次のうちから選

び、記号で答えなさい。

ア おねをわくわくさせていました

イ 不安でしかたがありませんでした

ウ 気が遠くなるような思いがしました

エ いらいらと落ち着きませんでした

問5 線⑤「すこし、たかいです」とありますが、このときのミルじいさんの心情としてよいものを次のうちから選

び、記号で答えなさい。

ア あたたく、やさしい言い方。

イ 暗く、あわれむような言い方。

ウ 強く、おどかさような言い方。

エ つめたく、そっけない言い方。

問6 線⑥「すこし、たかいです」とありますが、このときのミルじいさんの心情としてよいものを次のうちから選

び、記号で答えなさい。

ア セルゲイがほしがっていたおみやげを買っていつてやれな

いという絶望感。

イ こつと屋の主人はわざと高い値段をいったのにちがいな

いという不信感。

ウ 自分の話す日本語がきちんと伝わっていないのかもしれない

という不安感。

エ もしかしたら、いくらか値段をまけてもらえるかもしれない

という期待感。

「すこし、たかいです。」と、こつとをつづりつづりもつしました。いくらならよろしいのですか。」

そこで、じいさんは、もういくらもはいつていないが、まぐちを調べました。

注 支那Ⅱ第二次世界大戦までの中国の古いよび方。

2

次の文章を読んで、あとの問いに答えなさい。
校長先生の家のよこの道をのぼって丘をひとつこえると、ネコカブリ川という小さな川にでます。そこまでぶらぶらとやってきた校長先生は、おやつとおもって立ちどまりました。川の土手の草むらにねころがって、ねこ原くんがぼんやりと空を見あげていたのです。

「きょうはいたずらはやすみかい。」

校長先生は、近よっていつて声をかけました。いつものねこ原くんなら、いまごろは子分を大ぜいひきつれて、林や畑をあらしまわっているところなのです。

「うん。なんだかつまんなくなっちゃったんだ。」

ねこ原くんは、校長先生を見あげて、にっこりわらいました。そのわらい顔にさわれたように、校長先生はねこ原くんのとなりにこしをおろしました。

「いたずらはおもしろいかい？」

「おもしろいよ。でも、勉強よりはつまんないや。」

「おや、きみは勉強がすきなのかい？」

「うん。でも、ママが勉強するのをゆるしてくれないんだ。パパのせいなんだよ。」

「おとうさんのせい？」

「そうだよ。パパはね、大学だけじゃなく、家にいるときでも勉強してるんだ。ごはんを食べてるときでも、おふろにはいつていても、本を読んだり計算をしたりしてるんだよ。ママが話しかけても返事もしない。だからママは、すっかり勉強が嫌いになって、ぼくがおとうさんみたいにならないようにって、ぼくに勉強させないんだよ。」

25

20

15

10

5

ねこ原くんは、さびしそうにまた空を見あげました。

「きみは、勉強がしたいのかい？」

「したいよ！」

ねこ原くんは、ぱっと校長先生のほうに顔をむけると、目をぎらぎらさせました。

30

「勉強したくってしたくって、たまらないんだ。でも、させてもらえないから、しかたなくいたずらやってるんだ！」

校長先生は、なんだかねこ原くんがかわいそうになってきました。そして、こんなに勉強したがっている子に、勉強をさせないなんて、ひどくまちがったことのようにおもえてきました。

「よし。あしたからきみは、学校で勉強をしてよろしい。」

校長先生は、おもいきっていいました。

ねこ原くんは、うつむいてしばらく考えこんでいましたが、やがて顔をあげると、

「校長先生とママと、どっちがえらいの？」

「そうだな。かんたんにはいえんが、すくなくとも学校ではわしのほうがえらいだろう。」

「わあい、よかったあ。それならば、校長先生のいうことをきいて、勉強するよ！」

ねこ原くんは、土手の草をちぎっては投げ、ちぎっては投げしながら、くるったようにおどりはねました。

「これでいいんだ。」

校長先生は、そんなねこ原くんを見ながら、まんぞくそうにうなずきました。

(三田村信行『ゆかいなネコカブリ小学校』)

45

40

問③

線③「おや、きみは勉強がすきなのかい？」とありますが、それまで校長先生はどう思っていたのですか。次の文の() a・b にあてはまることばを、文中からそれぞれ四字以内で書きぬきなさい。

ねこ原くんは(a)よりも(b)がすきだと思っていた。

a	b

問④

線④「ママが勉強するのをゆるしてくれないんだ」とありますが、このことについてのねこ原くんの気持ちがわかる様子を、文中から六字で書きぬきなさい。

問⑤

線⑤「目をぎらぎらさせました」とありますが、このときねこ原くんの気持ちとしてよいものを次のうちから選び、記号で答えなさい。

- ア 校長先生に腹を立てる気持ち。
イ パパとママをうらむ気持ち。
ウ 勉強のことを思っとうつとりする気持ち。
エ 勉強したくてしかたない気持ち。

問⑥

線⑥「にあてはまることばとしてよいものを次のうちから選び、記号で答えなさい。」

- ア おそろおそろ イ はきはきと
ウ ぶっきらぼうに エ さりげなく

問①

線①「おやつとおもって立ちどまりました」について、次の問いに答えなさい。

- (1) このときの校長先生の心情としてよいものを次のうちから選び、記号で答えなさい。
ア かなりあきれている。
イ かなりおこっている。
ウ 少しよろこんでいる。
エ 少しおどろいている。

(2) (1)のような心情になった理由をのべた次の文の()にあてはまることばを、文中から三十字でさがし、初めと終わりの四字を書きぬきなさい。

いつもなら、()ねこ原くんが、川の土手の草むらにねころがっていたから。

問②

線②「校長先生はねこ原くんのとなりにこしをおろしました」とありますが、その理由としてよいものを次のうちから選び、記号で答えなさい。

- ア ねこ原くんの様子に何か心を引かれるものがあつたから。
イ ねこ原くんが話し相手を待っていたことに気づいたから。
ウ ねこ原くんの態度を注意してやらなければと思ったから。
エ ねこ原くんのわらい顔を初めて見て大すきになったから。

()

●副詞

【例題】 次の文の□にあてはまることばをあとから選び、それぞれ記号で答えなさい。

- (1) 妹が□笑う。
(2) あの国は□広い。
(3) 君は□来なかったのか。

ア なぜ イ しくしく ウ にっこり エ たいへん

【解き方】

あとのことばに注意して、ふさわしいことばを選びましょう。

- (1) どのように「笑う」のか、「笑う」様子を表すことばを選びます。
(2) どのくらい「広い」のか、「広い」程度を表すことばを選びます。
(3) 「……か」とたずねる言い方と組み合わせて使うことばを選びます。

「なぜ・しくしく・につこり・たいへん」のように、それだけで意味がわかることばで、形は変わらずに、どんな様子か、どれくらいの程度かを表すことばを副詞といいます。

【答え】 (1) ウ (2) エ (3) ア

【副詞の三種類】

- ・「どのように」か、動きなどの様子を表すもの。【例】 ふと・さっと
- ・「どのくらい」か、程度を表すもの。【例】 少し・とても
- ・あとの決まった言い方と組み合わせられるもの。

【例】 この湖はまるで海のようにだ。
そんなことはまったく知らない。

3 次の文の——線部に注意して、□にあてはまることばをあとから選び、それぞれ記号で答えなさい。

- (1) 明日は□晴れるだろう。

- (2) □雨がふったら出かけるのはやめよう。

- (3) □本物を見てみたい。

- (4) かれは□そんなところに行ったのか。

- (5) □問題はないから心配いらない。

ア どうして イ もし ウ おそらく
エ まったく オ ぜひ

4 次の文の□にあてはまることばをあとから選んで書きなさい。

- (1) こちらのほうが□重いようだ。

- (2) 君は□ピアノが好きにちがいない。

- (3) 言いたいことは□言うせいにくだ。

- (4) わたしは□そんなことはしない。
(けっして きつと はっきり やや)

1 次の文の□にあてはまることばをあとから選び、それぞれ記号で答えなさい。

- (1) 足がいたいので□歩こう。

- (2) 家に帰ると気持ち□する。

- (3) 子どもが□道路に飛び出した。

- (4) 道がおつて□すべる。

- (5) まちの明かりが□光っている。

ア きらきら イ つるつる ウ ほっと
エ ゆっくり オ いきなり

2 次の文の□にあてはまることばをあとから選び、それぞれ記号で答えなさい。

- (1) わたしは□わすれものをしてしまうことがある。

- (2) □わすれものをしないように気をつけなさい。

- (3) その道具は□大きいそうだ。

- (4) 心配したようなことは□なかった。

ア いつも イ ほとんど ウ ときどき エ かなり

□漢字の学習10

線部の漢字は読みをひらがなで書き、かたかなは漢字に直しなさい。

- (1) にぎやかな街を歩く。

- (2) 実験がうまくいく。

- (3) どこまでも続く道。

- (4) 目標達成に努める。

- (5) 小児科の医者。

- (6) 特別にゆるされる。

- (7) 栄養まんてんの食事。

- (8) 兵庫県に住む。

- (9) 朝飯を食べる。

- (10) 無事目的地に着く。

- (11) ウメの花がさく。

- (12) 祖母とマゴ。

- (13) スポーツクラブをやめる。

- (14) ツメたい水を飲む。

- (15) トクシマ県に引っこす。

- (16) じゅもんをトナえる。

- (17) 友人をシンヨウする。

- (18) カイギを開く。

- (19) 大きなキカイで工事する。

- (20) ひながスタツ。

例題

次の文章を読んで、あとの問いに答えなさい。

達也のさえない顔は変わらなかった。目をくりつとさせたり、くちびるでパパパと音をたてたりするくせも、でてこない。おかしいなあ、と洋介は感じてきた。「どうしたんだよ」「べつに」というやりとりが、なんどもあった。

そして二日前、電話で、達也はほんとのことを洋介にうちあけた。「もうじき転校するかもしれないんだあ」

「えー、どうしてえ」
洋介はびっくりした。達也は、母とふたりだけで暮らしている。母親は、浦和にある法律事務所で、事務の仕事をしている。印刷会社につとめていた父親は、三年前にガンでなくなっていた。

「浦和に引っ越すのかい」
達也がだまっているので、洋介のほうから聞いた。達也は「ううん」とだけ言って、まだだまった。「どこなんだよお」とくりかえし聞いてもだまっていたが、やっと、「……千葉」とだけ、低い声で答えた。

「えー、どうして」
この質問にも、達也はためらっているようだったが、やがて、投げやりな言い方で、
「母さんがよ、結婚したいんだとよ」

こんどは、洋介のほうになにも言えなくなってしまった。のどに、
なにかつまってしまったみたいだった。

(及川和男『なんでも相談ひきうけます』)

20 15 10 5

めあて

- ① 表現の工夫から人物の様子をとらえよう。
- ② たとえ表現に着目して人物の心情をとらえよう。

1

線①「目をくりつとさせたり、くちびるでパパパと音をたてたりするくせも、でてこない」とありますが、この表現はだれのどんな様子をえがいたものですか。十五字以内で書きなさい。

2

線②「のどに、なにかつまってしまったみたいだった」とありますが、このときの洋介の心情としてよいものを次のうちから選び、記号で答えなさい。
ア ひみつを持たれ、いかりをおぼえている。
イ どう答えればよいか、とまどっている。
ウ 巻き込まれたくないと、警戒している。
エ 悩みに気づいてやれず、反省している。

()

1 解説

物語文や随筆文では、登場人物や筆者の様子・心情を読み取ることが大切ですが、それらを読み取る手がかりとして、さまざまな表現に着目しましょう。

物語文の作者や随筆文の筆者はさまざまに表現を工夫して、物語の世界を豊かなものにしたたり、読者にメッセージを伝えたりしています。細部の表現を読み味わって、えがかれている様子や心情を正確にとらえましょう。

では、——線①の表現を見ていきましょう。
直前の「達也のさえない顔」から、——線①は「達也」の様子であることがわかります。

「目をくりつとさせたり、くちびるでパパパと音をたてたりするくせも、でてこない」という表現からは、どんなことがわかるでしょうか。

- ・目をくりつとさせるくせ
- ・くちびるでパパパと音をたてるくせ

これらの「くせ」から、達也がふだん「表情が豊かで、ひょうきんな子であることがわかります。それらのくせが「でてこない」とあるので、ふだんの達也の様子ではない、ということがわかります。転校するかもしれないというひみつをかかえ、ふだん通りにふるまえない達也の様子を読み取りましょう。

答え 達也のふだんとちがう様子。

2 解説

物語文や随筆文でよく使われる表現として、「たとえ(ひゆ)表現」があります。

たとえば、ここに一人のとても心やさしい女の子がいます。

■あの女の子はやさしくて、まるで天使のようだ。

「天使」には、やさしくて美しいイメージがあります。ここでは、心やさしい女の子を、「天使」にたとえることによって、女の子のやさしい様子がよりはっきりと想像しやすくなります。

このように、「たとえ(ひゆ)表現」を使うことによって、読者はそのものの様子がよりイメージしやすくなり、筆者の伝えたいメッセージも読者により伝わりやすくなります。

さて、——線②を見ていくと、
「のどに、なにかつまってしまったみたい」

とあり、「たとえ(ひゆ)表現」が使われています。
のどになにかつまってしまった様子を想像してみると、違和感や不快感、閉そく感(とじふさがる感じ)などの気持ちがいメージされます。

また、直前の文に「洋介のほうになにも言えなくなってしまった」とあることから、「どう答えればよいか、とまどっている」気持ちになっ

答え イ

表現の工夫

さまざまな表現に着目し、様子や心情をとらえる。

1 次の文章を読んで、あとの問いに答えなさい。

「野沢くん」
振り返ってみると早田先生で、佑の全身は凍りついたようになってた。一緒に走っていた長尾一平が隣で、
「やっぱ」
とつぶやく。

廊下の階段は、走ってはいけないことになっている。しかも、歌っていたのは、歌うたびに女子たちに「下品」だと糾弾される、三浦総合システムのCMソングの替え歌だ。

呼び止めた早田香苗先生は、佑のクラスの担任で、学校の中でいちばん怖い先生だ。佑は思わず目をつぶった。

「走ってすみません」

「下品な歌もすみません」

佑と一平は目をつぶったまま、ぺこんと頭を下げた。

が、先生の口から出てきたのは、意外な言葉だった。

「ちょっとお願いがあるんだけど」

目を開けると、早田先生の穏やかな顔が見えた。階段を上ってくる。

「なんですか」

かちりと視線が合った。同じ段に立った先生の視線は、五年生の佑よりもちょっと低いのだが、思わず敬語になってしまった。

早田先生は若い女の先生だ。丸顔でおかっぱ。身長は百五十センチくらいで、小学生に間違われることもある。それなのに、ものすごい圧力があるのは、目が鋭いからだ。児童がルールを破ったり、ふざけすぎたりするときに出るひとにらみ。早田先生からにらまれ

問1 線①「佑の全身は凍りついたようになった」とありますが、このときの佑についての説明としてよいものを次のうちから選び、記号で答えなさい。

- ア あきれたて、冷たい態度をとっている。
イ 驚きのあまり、頭が真っ白になっている。
ウ つかれ切って、体が動かなくなっている。
エ 緊張と恐怖で、体が固くこわばっている。

問2 線②「先生の口から出てきたのは、意外な言葉だった」とありますが、佑は早田先生からどんなことを言われると思っ

ていましたか。「廊下」「歌」ということばを使って、「こと」の形で、三十字以内で書きなさい。

問3 線③「思わず敬語になってしまった」とありますが、この表現からわかることとしてよいものを次のうちから選び、記号で答えなさい。

- ア 佑が、早田先生に好意を持っていること。
イ 佑が、早田先生をおそれていること。

ウ 早田先生が、児童から尊敬されていること。
エ 早田先生が、児童から嫌われていること。

問4 線④「目が鋭い」とありますが、早田先生の目の鋭さはどのくらい威力があるのですか。それがよくわかる一文を文中からさがし、初めの五字を書きぬきなさい。

問5 線⑤「一平は色めいた」とありますが、このときの一平の心情としてよいものを次のうちから選び、記号で答えなさい。

- ア 信じられずあっけにとられている。
イ 不安で落ちつかなくなっている。
ウ 自信がなくなりおどおどしている。
エ うれしくなって生き生きしている。

問6 線⑥「一平は残念そうに肩をすくめ、佑のほうは顔をしかめた」とありますが、一平と佑の心情の説明としてよいものを次のうちから一つずつ選び、それぞれ記号で答えなさい。

- ア 自分の期待が外れて、がっかりしている。
イ 依頼された内容に不安をおぼえている。
ウ 頼りにしてもらい、うれしくなっている。
エ 希望通りにいかず、不満に思っている。
オ 興味がわいてきて、やる気になっている。

一平 () 佑 ()

「なんだあ」
一平は残念そうに肩をすくめ、佑のほうは顔をしかめた。書くという言葉に引っかかったのだ。

注 糾弾 罪や責任を問いただし、非難すること。

2

次の文章を読んで、あとの問いに答えなさい。

うちの馬小屋には今年、ツバメが巣をかけた。大きな梁の真ん中、人に観察はされるが邪魔はされないという絶好の位置だ。

チーチージュクジュクキュイキュイ、とさえずりながら慌ただしく出入りする親鳥を、馬小屋の屋根によじのぼった猫たちが日がな一日見張っている(でも届かない)。その猫たちを、犬たちが下から見あげては吠えまくる(でも届かない)。

シートと彼らを黙らせながら一緒に見あげると、のどの赤いヒナが競って口をあけているのが見える。ポケットのような形の巣は、泥を唾液で固めて作るものらしい。昔は人間の家も地方ごとに土塀や塗り壁の色が違ったというけれど、彼らの巣はいまだにそうなんだろう。

毎年、こうしてツバメを見るたびに思い出してしまうことがある。小学四年生のキャンプ。学年全員が、四台のバスに分乗して遠出をした帰り道のことだ。

バスの待つ駐車場まで列になって歩いて戻る途中、私は、とある家の前の溝に落ちているツバメのヒナを見つけて動けなくなってしまう。みんなが押し合いへし合いして覗きこむ中、うずくまっているヒナを両手ですくいあげる。くちばしなんか文字通りまだ黄色くて、ちょっと押してもつぶれてしまいそうだけれど、前にスズメだつて育てたことあるもの、きつと大丈夫。

と、滞る列を不審に思った先生が走り寄ってきた。「そこ、何してるの! 道草しないでまっすぐ歩きなさい!」

「先生、見て、ツバメの子が……」

最後まで言う暇もなかった。先生は一瞬迷いこそのしたものの、すぐにヒナをひたたくるようにして私の帽子に入れると、列のほうへ

ぐいっと背中を押したのだ。

交通量の多いところだったから先生もびりびりしていたのだろう、と今だからわかる。でも当時の私は、大好きな先生の険しい横顔と、押された力の思いがけない強さにすっかりくんでしまい、バスが動きだしてから帽子の中のヒナを眺めるふりを装ってうつつむいていることしかできなかった。

けれど、バスは五分ほど走った後、するすると路肩に寄って止まった。運転席のほうから無線でほかのバスとやり取りする声が聞こえ、やがて男の先生が私の席へやって来て、ひどく優しい声で言った。

「そのヒナはここに残していこう。生きた餌しか食べないから僕らにはとても育てられないけど、ここならお母さんツバメが見つくて餌を運んでくれるから。ね?」

まわりじゅうの視線が注がれていた。私のせいで四台ものバスが止まっているのだ。巢からこんなに離れた今、お母さんツバメ云々という先生の言葉がその場を丸くおさめるためのウソに過ぎないことくらい子供心にもわかっていた。でも私には何も言えなかった。

そんなのウソだよ、と言ってしまったが最後、ヒナを守るために先生たちと戦わなくてはならなくなる。ああ、こんなことなら拾ったりしなればよかった。せめて元の場所に帰してやれたら……。

結局、しばらくして、バスは再び走り出した。ピーピーと鳴くヒナを、道路脇の草むらに残して。

先生たちばかりがクラスの人みなまでがほっとしているのを肌で感じながら、私はやっぱりうつつむいていた。あのヒナを守らずに自分自身を守ってしまった、そう思うといたたまれなさに顔が上げられなかった。

(村山由佳「飛べないツバメ」(『楽園のしっぽ』所収)

問1

線①「押し合い……覗きこむ」とありますが、このときの説明としてよいものを次のうちから選び、記号で答えなさい。

ア 何をしているのかと、生徒たちが集まってきて、ごった返しながら「私」の様子をうかがっている。

イ 何をしているのかと、生徒たちが列になって歩きながらも「私」の様子が気になり、見入っている。

ウ 何をしているのかと、生徒たちが入れかわり立ちかわりやってきて、「私」の様子を見つめている。

エ 何をしているのかと、生徒たちが歩いてきた列からはなれてやってきて、「私」の様子を見ている。

問3

線③「先生もびりびりしていたのだろう」とありますが、このときの先生の心情が行動に表れている一文を文中からさがし、初めの五字を書きぬきなさい。

問4

線④「ひどく優しい声」とありますが、このときの先生の心情としてよいものを次のうちから選び、記号で答えなさい。

ア 「私」がこわがらないようにしなければいけない。

イ 「私」をおこらせないようにしなければいけない。

ウ 「私」に言い聞かせ反省させなければいけない。

エ 「私」をなんとしても説得しなければいけない。

問5

線⑤「ヒナを守るために先生たちと戦わなくてはならなくなる」とは、どういうことですか。よいものを次のうちから選び、記号で答えなさい。

ア 先生たちにしかられ嫌われることになってしまうということ。

イ 先生たちのあやまちを責めることになってしまうということ。

ウ 先生たちの意見に反抗するほかなくなってしまったということ。

エ 先生たちの言うことに従うほかなくなってしまったということ。

問6

線⑥「肌で感じながら」とありますが、このときの「私」についてのべたものとしてよいものを次のうちから選び、記号で答えなさい。

ア 周りの様子から、みんなが安心していることを感じ取った。

イ 周りの様子から、みんなが不満を感じていることを知った。

ウ 自分で勝手に、みんなは安心しているのだろうと想像した。

エ 自分で勝手に、みんなは不満を感じているのだろうと考えた。

問7

線⑦「いたたまれなさに顔が上げられなかった」とありますが、このときの「私」の心情の説明としてよいものを次のうちから選び、記号で答えなさい。

ア 自分の考え方について迷いを感じている。

イ 自分の考え方について疑問を感じている。

ウ 自分のしたこととに気まずさを感じている。

エ 自分のしたこととに誇らしさを感じている。

●熟語の組み立て

【例題】 次の漢字とにた意味の漢字を□から選んで入れ、二字熟語を作りなさい。

(1) 教	(2) 使	用
		育

【解き方】

- ・二字以上の漢字が結びついてできたことばを熟語といいます。
- ・まず、それぞれの漢字の意味を考えましょう。訓読みにすると、意味がつかみやすくなります。

(1) 教：教える (2) 使：使う

用：用いる 育：育てる

「教」と「育」、「使」と「用」がにた意味を表しているかわかります。

【答え】

(1) 育 (2) 用

■熟語の組み立て

- ・同じ漢字を重ねたもの。【例】時々（時々）
- ・にた意味の漢字を組み合わせたもの。【例】平等
- ・反対の意味の漢字を組み合わせたもの。【例】大小
- ・上の字が主語、下の字が述語の関係になっているもの。【例】国立
- ・上の字が下の字を修飾しているもの。【例】黒板（黒い板）
- ・下の字が上の字の動作の目的や対象を表すもの。
- 【例】上陸（陸に上がる）
- ・上に「無・不・未」のような打ち消しの字がつくもの。【例】不安
- ・下に「然・的・化」などがついて、意味をそえるもの。【例】同化
- ・長い熟語を省略したもの。【例】国連（国際連合）

4

下に「然・的・化」のどれかをつけて熟語になる漢字をあとからすべて選び、記号で答えなさい。

(1) 然	(2) 的			
(3) 化				
ア 整	イ 詩	ウ 病	エ 風	オ 必
カ 知	キ 進	ク 当	ケ 消	

5

次の熟語の組み立てとしてよいものをあとから選び、記号で答えなさい。（同じ記号を二回以上使ってもよい。）

(1) 昼夜	(2) 平和	(3) 入試
(4) 鉄橋	(5) 人人	(6) 読書
(7) 不動	(8) 決心	(9) 温和
(10) 年長	(11) 歩道	(12) 国国
(13) 緑化	(14) 前後	(15) 無事
(16) 短歌	(17) 思考	(18) 乗車
ア	にた意味の漢字を組み合わせたもの。	
イ	反対の意味の漢字を組み合わせたもの。	
ウ	上の字が主語、下の字が述語の関係になっているもの。	
エ	上の字が下の字を修飾しているもの。	
オ	下の字が上の字の動作の目的や対象を表すもの。	
カ	同じ漢字を重ねたもの。	
キ	上に打ち消しの字がつくもの。	
ク	下に意味をそえる字がつくもの。	
ケ	長い熟語を省略したもの。	

1 次の□に漢字一字を入れて、にた意味の漢字を組み合わせた熟語を作りなさい。

(1) 道	(2) 始	(3) 森
(4) 衣	(5) 画	(6) 回
(7) 整	(8) 産	(9) 暗

2 次の□に漢字一字を入れて、反対の意味の漢字を組み合わせた熟語を作りなさい。

(1) 天	(2) 楽	(3) 明
(4) 軽	(5) 右	(6) 敗
(7) 売	(8) 少	(9) 高

3 次の□に「無・不・未」のどれか一つを入れて、熟語を作りなさい。

(1) 口	(2) 利	(3) 然
(4) 来	(5) 害	(6) 人
(7) 正	(8) 便	(9) 幸

漢字の学習 11

線部の漢字は読みをひらがなで書き、かたかなは漢字に直しなさい。

(1) 戦争に反対する。	(11) 役目をハたす。
(2) 機を織る。	(12) 商品をソウコから出す。
(3) 友人のことばを信じる。	(13) 会社のジョウシに会う。
(4) 別の側面に光を当てる。	(14) ウジガミ様をまつる。
(5) 老後の心配をする。	(15) セイコウをおさめる。
(6) 頭を冷やす。	(16) 学校をソツギョウする。
(7) 火事で焼失する。	(17) シカイチを通りぬける。
(8) 着席をする。	(18) 見る目をヤシナう。
(9) 電車を利用する。	(19) それはシュウチの事実だ。
(10) 岐阜県で、う飼いを見る。	(20) 新聞をインサツする。

例題

次の文章を読んで、あとの問いに答えなさい。

「……動物愛護センターに持っていったから」

「動物愛護センター？」

「保健所がやっている所よ。飼えなくなったり、捨てられたりしたペットを預かってくれるの。仕方がないでしょう？ うちはあんたが世話をしないんだから！」

そうだったんだ。もうラッキーには会えないのか。

でも「でも」これでもうラッキーのことで、怒られなくて済むぞー

「へえ、そんなセンターがあるんだね。便利だね！」

「……」

母ちゃんと父ちゃんは、もくもくと食器洗いを続けていた。

カウンターのいた男のお客さんが、なぜか険しい顔つきになって、こつちをじろりと見た。食べおわったらしく、どんぶりをドンと置いて、立ちあがった。

バイクの白いヘルメットをかぶりながら、低い声でこういった。

「君は知らないのか？ 動物愛護センターは、捨て犬や、もう飼えないからと持ちこまれた犬を引きとるが、何日かして新しいもらい手が見つからないと、その犬は殺処分されてしまうんだよ！」

全身の血が、逆流するようないだった。

「……え？ 殺されるってこと？ ラッキーが？」

(高橋うらら『犬たちからのプレゼント』)

めあて

- ① 情景や人物の行動、心情から主題を読み取る。
② 出来事の変化にともなう心情の変化から主題を読み取る。

1

「」にあてはまることばとしてよいものを次のうちから選び、記号で答えなさい。

ア 内心がっかりした

イ 内心ほっとした

ウ 内心くやしかった

エ 内心かなしかった

2

この文章に書かれている中心のことがらはどういうことですか。よいものを次のうちから選び、記号で答えなさい。

ア 主人公の両親が、飼った犬の世話をしなかった主人公の無責任さを非難していること。

イ 店に来ていた男性客が、動物愛護センターの悲惨な実態について怒りを感じていること。

ウ 主人公が、飼った犬が動物愛護センターで預かってもらえるようになり感謝していること。

エ 主人公が、安易に考えていた飼った犬の行く末が悲惨なものとなり衝撃をうけていること。

1 解説

主題とは、作者がその作品を通じて読み手に伝えたいことです。

この文章は、ペットとして飼っていた犬の「ラッキー」が「動物愛護センター」へ預けられた話から始まります。

登場人物

- ・主人公(ラッキーの飼い主)
- ・主人公の両親：「母ちゃんと父ちゃん」
- ・両親の店に来ていた男のお客さん

主人公の両親

「動物愛護センターに(ラッキーを)持っていったから」

「仕方がないでしょう？ うちはあんたが世話をしないんだから！」

●両親が、主人公がラッキーの世話をしないことを理由に、動物愛護センターにラッキーを預けた、といっています。

主人公

「もうラッキーには会えないのか……さびしい気持ち」

「でも」

「これでもうラッキーのことで、怒られなくて済むぞー！」

「へえ、そんなセンターがあるんだね。便利だね！」

……怒られなくて済むからよかった、という気持ち

の直前の「でも」に着目すると、の前後で主人公の気持ちが変わっていることがわかります。

ラッキーに会えなくなるさびしさから、ラッキーの世話から解放された安心感へと気持ちが変わっています。

答え イ

2 解説

出来事の変化や心情の変化から、主題(作者が伝えたい中心のこと)を考えてみましょう。

出来事の変化

動物愛護センターへ飼い犬を預けたことを両親から知らされた。

主人公の心情の変化

会えなくてさびしいが、世話をしないことで怒られずに済む。

内心ほっとした。

センターは便利などころだ。

預けた飼い犬は殺されるかもしれない。

全身の血が、逆流するようない(大きな衝撃)

主人公は初め、飼い犬の世話から解放されたことにほっとし、センターは「便利」などころだと、無責任な考え方をしています。しかし、センターへ預けられた犬たちがどうなるのか、その実態を教えられたことで、大きな衝撃を受けています。

答え エ

主題の読み取り方

文章のあらすじをとらえて、話が盛り上がるところ(クライマックス＝山場)をおさえることが大切である。

2

次の文章を読んで、あとの問いに答えなさい。

人間が古いものですから、家にあるものは何でも古いのです。たとえば、五十年ほど使っているくだものナイフ。買ったときは刃が厚めで、いまひとつ切れ味がよくなかった。だから砥石でもって自分で一生懸命に研いで刃をつけたら、驚くほど使いやすくなりました。

ジャガイモの皮をむくのにもいいし、ゆべしやかまぼこ、羊羹もスツツと気持ちよく切れる。テレビを見ながら柿をむいたりするのにも重宝です。

ほかにもナイフは台所にたくさんありますが、ちょっとしたものを切るときは全部これ。すっかり手になじんで「自分のもの」になっているから、どうしても出番が多くなります。

この「なじむ」という感覚が、私にとってはとても大事なことです。買ったものを大切に使えるかどうかは、なじめるかどうかで決まると私は思っています。だから、ものを買うときには値段だけにとらわれるのではなく、「長くつきあっているかどうか」を自分に問いかける。夫も私も、これを基準に身のまわりに置くものを選んできました。

放っておくと家の中には雑多なものが次々に入ってきます。食器にしても万年筆にしても、不本意なものをがまんしながら使うというのは気持ちのよいものではありません。

少々値は張っても長くつきあえるものを選ぶ。これは、もののできるだけ持たないための工夫であり、気持ちよく毎日を送る秘訣でもあります。そして結果的には経済的でもあると思うのです。

そうやって吟味して選んだものの多くが、数十年を経てなおわが

5

問1

線①「五十年ほど使っているくだものナイフ」とありますが、このナイフのことを指している八字のことばを文中から書きぬきなさい。

問2

線②「驚くほど使いやすくなりました」について、次の問いに答えなさい。

(1) 初めはどんなナイフでしたか。それがわかる一文をさがし、初めの五字を書きぬきなさい。

(2) 使いやすくなった結果、どうになりましたか。次の□にあてはまることばを文中から書きぬきなさい。

問3

線③「これを基準」について、次の問いに答えなさい。

(1) どんなことを基準にしているのですか。次の文の()にあてはまることばを、文中から十字以内で書きぬきなさい。

家で現役で活躍しているわけで、五十年モノのくだものナイフも、すっかりなじみの品の一員となっているというわけなのです。

最近(さいきん)は自炊(じすい)をする人が減(へ)ったせい(せい)か、包丁(はうちょう)がうまく使えない人が多い(おおい)ようです。わが家で月に一回、「おれの会」というものを開いて(ひら)いてるのですが、あるときリング(リング)を五つぐらい持ってきてくださった方がいて、「デザートにみんなにいただきます」ということになりました。ところがその方、五つのリングをむくのになかなか台所から戻(もど)ってきません。

「どうしよう、手伝いにいこうか」なんていうのですが、それも悪(わる)いかなど思ったり。ようやく出てきたと思ったら、皮はぐちゃぐちゃ、実はデコボコになっていたなんてこともありました。

ある人は、一生懸命に包丁を押しながら野菜やお肉を切っているのです。引かかって切れないから、ぐいぐいと押して切り離(はな)そうとしている。包丁の場合、押して切るなんてことはそんなにしませんでしよう。だから、「ちよつと引いてごらんささい」と私がいったら、すつと切れて大笑(おほわら)いをしました。

包丁には一種の「使い方」があるのです。

そういう生活の基礎的なことだけは、若いときにきちんと身につけておいたほうが得(とく)ですね。

そういえば先日、「いまでも包丁は全部自分で研いでいます」と取材(しゆざい)に来た方に話したら、とても驚(おどろ)かれました。

その反応(はんおう)に私が驚いてしまった。だってトントンと切ったあと、お漬(つけ)けものが全部つながっていたなんて、いやではないですか。

(吉沢久子「今日を限りに生きる」)

注 吟味(れんみ)＝念入りに調べること。

45

問4

線④「その反応に私が驚いてしまった」とありますが、なぜですか。よいものを次のうちから選び、記号で答えなさい。

ア 自分で研ぐのは当然のことだと思っていたから。
イ 刃物を研ぐのは自分の仕事だと思っていたから。
ウ 包丁を研ぐのは若者の仕事だと考えているから。
エ 刃物を研ぐのはたまにでいいと考えているから。

問5

筆者の考えと合うものを次のうちから一つ選び、記号で答えなさい。

ア もの、なじめるものを吟味して選ぶのが大事である。
イ ものを選ぶときには、ストレスを感じないものがよい。
ウ 刃物類に関しては、値段の高いものを買うべきである。
エ 生活の基礎的なことは、若いときには身につけにくい。

● 三字熟語

【例題】 次の三字熟語の組み立てとしてよいものをあとから選び、記号で答えなさい。

運動場

ア □ + □ + □ イ □ + □ + □ ウ □ + □ + □ ()

【解き方】

・三字熟語の組み立てには、次の三つがあります。

* □ + □ + □ * □ + □ + □ * □ + □ + □

・三字熟語の組み立てを考えるときには、熟語の中で意味を分けられるまとまりをさがしましょう。

運動場：運動一場

運動する・場所

【答え】 イ

■ 三字熟語の組み立て

① □ + □ + □ …… 三字が対等にならぶ。【例】大中小

② □ □ + □

* 上の二字が下の一字を修飾する。【例】入学式（入学する式）

* 下に「然・的・化」などがついて、上の二字に意味をそえる。

【例】理想的（理想通りになっている様子）

③ □ □ + □ □

* 上の一字が下の二字を修飾する。【例】新学期（新しい学期）

* 上に「無・不・未」などがついて、下の二字を打ち消す。

【例】不完全（完全ではない）

3 次の□に「無・不・未」のどれか一つを入れて、三字熟語を作りなさい。

(1) □ 完成 (2) □ 理解
(3) □ 自然 (4) □ 開発
(5) □ 関心 (6) □ 公平

4 次の意味に合うように、□に漢字一字を入れて三字熟語を完成させなさい。

(1) 特に好きで、よく読んでいる本。……愛読 □
(2) 海で泳いだり遊んだりすること。……海水 □
(3) 一世紀のうちの五十年間のこと。……世紀 □
(4) 家族の人数が多いこと。……家族 □
(5) 気持ちのありよう、わざ、体力の三つ。……技体 □
(6) 地方を治める単位の種類。……市 □ 村
(7) 世界中のこと。すべての世界。……世界 □

1 次の三字熟語の組み立てとしてよいものをあとから選び、記号で答えなさい。（同じ記号を二回以上使ってもよい。）

(1) 不等号 (2) 好意的
(3) 衣食住 (4) 乗組員
(5) 活火山 (6) 松竹梅
(7) 消火器 (8) 合理化
(9) 無意味 (10) 紙風船
(11) 上中下 (12) 新発売
(13) 満足感 (14) 積極的

ア 三字が対等にならぶもの。(□ + □ + □)

イ 上の二字が下の一字を修飾するもの。(□ □ + □)

ウ 下の一字が、上の二字に意味をそえるもの。(□ □ + □)

エ 上の一字が下の二字を修飾するもの。(□ + □ □)

オ 上の一字が、下の二字を打ち消すもの。(□ + □ □)

2 次の二字熟語に共通する一字をつけると、三字熟語を作ることができます。その一字としてよいものをあとから選び、記号で答えなさい。

(1) 発明・音楽・勉強 (2) 発見・司会・取材
(3) 日本・共通・外来 (4) 温度・雨量・体重
(5) 想像・百人・決断

ア 語 イ 者 ウ 計 エ 家 オ カ

□ 漢字の学習 12

線部の漢字は読みをひらがなで書き、かたかなは漢字に直しなさい。

(1) 郡部に住む。 (11) ここからモットも遠い国。
(2) 大きい順にならべる。 (12) メイレイを受ける。
(3) 荷物を置く。 (13) 金具でコテイする。
(4) 国語辞典を引く。 (14) オットと出かける。
(5) 昨年の春のできごと。 (15) 徒キョウソウに出る。
(6) 静かな声で話す。 (16) 朝の気温がヒクイ。
(7) チャンスを失う。 (17) キョウトフの寺に行く。
(8) 次の角を右折する。 (18) ヤクソクを守る。
(9) 桜島は鹿児島県にある。 (19) フク委員長になる。
(10) 大きな富を手に入れる。 (20) ナの花が満開になる。

2 次の文章を読んで、あとの問いに答えなさい。

野鳥の観察といえば、朝から夕方までの明るい時間に鳥を見るのがふつうです。では、夜はどこですごしているのでしょうか。人間のようには、雨や風をふせいでくれる安全な家があるわけではありませんが、天敵や台風などのきけんにおそれられるかもしれません。野鳥にとって、夜をどこですごすかは、昼間の生活と同じくらい重要なことなのです。

鳥の場合、巣の中で夜をすごすと思っている人がいますが、じつは、巣は子育てのためのもので、夜をすごすねぐらとは別のものなのです。

また、スズメの行動を夕方ずっと観察していれば、ねぐらに飛びこむところを、かんたんにつきとめられるように思えるのですが、実際にスズメを追ってみると、それほどやさしいことではありません。夕方のたそがれときには、小さくて目立たないスズメのすがたを見うしなっています。それだけに、スズメのねぐらを発見したときは、宝のありかを発見したようにうれしいものです。

わたしの家のまわりでは、人家の屋根うらやのき下、ビルの排気孔、えんとつなどをねぐらにしています。建物のガスや水道の配管の上、ものほし台の屋根のうら側などで、夜をすごすこともあります。

また、東京駅から皇居側に出たところにある新丸ビルでは、1階の外かべにある銀行の看板に、ねぐらをとっています。ここでは、夕方になると、3〜5羽のスズメが看板のうら側に飛びこんできますが、頭はかくしても、尾羽根がまる見えです。頭かくして尻かくさずぐといったところです。ときには、非常ベルの中をねぐらにすることもあるそうです。

みなさんの家のまわりでは、スズメは、どんなところで夜をすごしているのでしょうか。人にとってはなんでもない場所が、スズメのたいせつなねぐらになっているかもしれません。たんていにでもなった気分ですズメのねぐらを追跡してみてもいいでしょう。

ところで、スズメのねぐらには、1羽や数羽で、街中で夜をすごすのとはべつに、数百羽、数千羽といった大群で、ねぐらをとることも知られています。これを、集団ねぐらといいます。

集団ねぐらとしては、むかしから、人家のまわりにある竹やぶなどがよく利用されます。都会では、人や車で、ま夜中までにぎわう駅前や繁華街などが利用されます。

たとえば、東京の下町にある錦糸町駅前のアオギリでは、10〜12月にかけて、数百羽のスズメが夜をすごします。その木の下をたくさんの人が通り、深夜まで客待ちのタクシーがならんでいます。千代田区の市ヶ谷駅に近い日本テレビの玄関前のアオギリにも、数百羽の集団ねぐらがあります。

注1 アオギリは落葉高木。樹皮は緑色、葉は大きく、掌状。
注2 千代田区……日本テレビは、現在は港区に移転。

問1 線①「野鳥の観察といえば、朝から夕方までの明るい時間に鳥を見るのがふつうです。」とありますが、この文の主語と述語を文中からそれぞれ書きぬきなさい。

主語 述語

問2 線②「スズメのねぐらを発見したときは、宝のありかを発見したようにうれしいものです」とありますが、そう感じられるのはどんな事実があるからですか。よいものを次のうちから選び、記号で答えなさい。

- ア 観察していればねぐらをつきとめられる。
イ 夕方スズメを目で追うのはむずかしい。
ウ ふつう野鳥の観察は明るい時間にする。
エ スズメの巣とねぐらはちがう。

問3 線③「人にとってはなんでもない場所が、スズメのたいせつなねぐらになっている」とありますが、そのような場所の例をここより前の文中から七つ書きぬきなさい。

問4 線④「たんていにでもなった気分です、スズメのねぐらを追跡してみてもいいでしょう。」⑦「集団ねぐらとしては、むかしから、人家のまわりにある竹やぶなどがよく利用されます。」は、ア事実、イ筆者の意見のどちらですか。それぞれ記号で答えなさい。

④ ⑦

問5 線⑤「ところで」のはたらきとしてよいものを次のうちから選び、記号で答えなさい。

- ア 話題を変える。 イ 反対のことをのべる。
ウ 理由をのべる。 エ 付け加える。

問6 線⑥「これ」の指している内容を二十字以内で書きなさい。

問7 線⑧「たとえば」とありますが、何の例をあげていますか。次の□にあてはまることばをそれぞれ文中から書きぬきなさい。

都会では、
□や□
□などが集団ねぐらとして利用されることの例。

注1 石器時代Ⅱ人類文化の最も古い段階で、主に、石で作られた器具を使
用していた時代。

注2 語源Ⅱ単語の形や意味、成立の由来や起源。

注3 穀食Ⅱ食事でもいつも穀物を食べることを。

注4 箸は、箸のふちから吸うという方法をとるようにな
りました。深鉢にあたるものができたのは、そのためです。ヨーロッ
パには、椀にあたるものがあります。最近では、椀にスプーンを入
れることもあります。これは東洋の影響によるもので、西洋のス
プーンは、深めの皿に入れます。

注5 結局、はしを使う場合には、スプーンが発達しません。フォ
ークを使えば、いつまでもスプーンが残るのです。どっちが進んでい
る、遅れているというのではありませんが、歴史的にみて、フォ
ークのほうがほとんど変化せずに今日までできているのに反し、はしの
ほうはずっと変化しています。変化のあることを進歩とするなら、
はしのほうが進んだ食器といえます。それはともかく、ここに、穀
食文化と肉食文化との大きな違いが示されています。

注6 はしを使うのは日本、朝鮮、中国、東南アジアです。インドは
手づかみ、ヨーロッパはフォークというように、食品の相違によっ
て食べ方も違い、異なった文化をつくっているといえます。

40

3 次の文章を読んで、あとの問いに答えなさい。

① 日本の「はし」の古い形は一本の棒でした。それを曲げると、
両端がくっつくから「はし」といいます。はしは、それで食べもの
をはさむのです。これに対して、フォークは食べものを突き刺しま
す。日本でも石器時代はフォークを使っていた。くしのような
棒で、食べものを突いていたのです。このくしの両端をとがらせて、
はさむようにしたのがはしで、はしとくしとは語源は同じなのです。
西洋では、突き刺すフォークのままで今日にいたっています。

② ものを突き刺して食べるという方法は、肉食民族の性格でもあ
りますが、進歩・変化がしにくいといえます。はしは食べものを
さんで食べるのですが、なれてくると、どんなものでもはさむこと
ができるのです。固いものも柔らかいものも、どんな形をしたもの
でも、さらにどんな質のものでも、はさむことができます。はさん
で、はさみ切ることによって、大きいものを小さくすることもでき
るし、突き刺すこともできるというぐあいに、いろいろに使えるわ
けです。

③ 日本のように調理法が複雑な国では、食べものの形も種類もさ
まざまですから、どんなものでもらくに食べられるはしは、フォ
ークよりずっと便利な食器だといえます。

④ はしを使ったら食べよいか、フォークを使ったらほうがよいかは、
食べるものによって違います。ところで、スプーンのようなものはど
うでしょう。はじめは、はしもフォークも、スプーンを使うこと
で同じでした。西洋では、フォークにスプーンがずっと添えられた
まま、いまでも残っています。スプーンはすくう食器です。これ
でスプーンのようなものを飲むというわけです。はしを使う場合、は
しで汁をすくうのは無理です。

⑤ 汁の中味だけははしではさ

25

15

10

5

問8 この文章を大きく三つに分けるとするとどうなりますか。よ
いものを次のうちから選び、記号で答えなさい。

⑥

エ	ウ	イ	ア
①	①	①	①
②	②	②	②
③	③	③	③
④	④	④	④
⑤	⑤	⑤	⑤
⑥	⑥	⑥	⑥

問7 線⑥「ここに、穀食文化と肉食文化との大きな違いが示
されています」とありますが、どんなところに示されていますか。
よいものを次のうちから選び、記号で答えなさい。

⑦

ア	食品の形や種類	イ	食べものの調理法
ウ	食文化の変化	エ	食べ方や食器

問6 線⑤「結局、はしを使う場合には、スプーンが発達しま
せん」とありますが、はしを使う文化でスプーンが発達しな
かったのは、何の食器ができたためですか。文中から一字で書き
ぬきなさい。

問5 線④「これ」の指している内容を文中から十一字で書き
ぬきなさい。

③

ア	対抗する	イ	相当する
ウ	的中する	エ	担当する

問4 線③「あたる」に置きかえられることばとしてよいもの
を次のうちから選び、記号で答えなさい。

②

ア	つまり	イ	そこで
ウ	しかし	エ	あるいは

問3 ①にあてはまるつなぎことばとしてよいものを次のうち
から選び、記号で答えなさい。

③

ア	つまり	イ	そこで
ウ	しかし	エ	あるいは

問2 筆者は、はしの利点はどんなことだとのべていますか。③段
落のことばを使って、二十字以内で書きなさい。

⑥

ア	つまり	イ	そこで
ウ	しかし	エ	あるいは

問1 線①「はし」と、②「フォーク」の違いについて、次の
文の() a・bにあてはまることばを、aは五字、bは三字
で、それぞれ文中から書きぬきなさい。(二つのaには同じこ
とばがあてはまります。)

フォークは食べものを(a) 食べるが、はしは(b)
ことも(a) 食べることもできる。

④

ア	対抗する	イ	相当する
ウ	的中する	エ	担当する

●四字熟語

例題 次の□に漢数字を入れて、四字熟語を完成させなさい。
 □日□秋

解き方

・四つの漢字からできた熟語を四字熟語といいます。
 □日□秋…とても待ち遠しいこと。

「千」は、具体的な数ではなく、数がとても多いことを表しています。

答え 一・千

よく使われる四字熟語は、意味もいっしょに覚えておく。

- ・意気投合…おたがいの気持ちがあつたり合うこと。
- ・以心伝心…言葉がなくても、おたがいの気持ちが通じ合うこと。
- ・一石二鳥…一つのことをして、二つのものを手に入れること。
- ・花鳥風月…花、鳥、風、月といった、自然の中の美しいもの。
- ・完全無欠…不足してたり欠けていたりするところが全くないこと。
- ・空前絶後…これまでに全く起こったことがなく、今後もないようなめずらしいこと。
- ・自画自賛…自分で自分のことをほめること。
- ・七転八倒…転げ回るくらい非常に苦しむこと。
- ・弱肉強食…強い者が弱い者を打ち負かし、力を持つこと。
- ・無我夢中…何かに心をうばわれて、ほかに何も考えられないこと。

1 次の意味に合うように□に漢数字を入れて、四字熟語を完成させなさい。

- 何人かが同じ気持ちや考えで行動すること。
- 人の好みや考えはそれぞれちがうこと。
- たいへん苦しむこと。
- 何の手がかりもなくまようこと。
- ほんの短い時間であること。
- 何度も、くり返し。

再々 朝 夕 里霧中 苦 人 心 色 同 体

2 □には、たがいに反対の意味を表す漢字が入ります。□に合う漢字を入れて、四字熟語を完成させなさい。

- 名 実
- 半 半
- 一 一
- 千 千
- 針 棒
- 往 往
- 三 四
- 同 異

3 次の□にあてはまる二字熟語を組み合わせて、四字熟語を作るのによいものをあとから選び、記号で答えなさい。

- 群衆 (2) 創意
- 両論 (4) 放任
- 地方 (6) 難題
- 方正 (8) 解決
- 有害 (10) 自問
- 賛否 (イ) 無理
- 自由 (カ) 工夫
- 自治 (コ) 品行
- 心理 (ウ) 心理
- 円満 (エ) 円満
- 無益 (ク) 無益

4 次の四字熟語の意味としてよいものをあとから選び、記号で答えなさい。

- 前代未聞 (1) 公明正大
- 一念発起 (3) 一心不乱
- 絶体絶命 (5) 単刀直入
- 老若男女 (7) 八方美人
- 何のかくしだてもなく、正しい様子。
- 前置きもなく、いきなり話の本題に入ること。
- 今まで聞いたこともないようなこと。
- 何かを成しとげようと決心すること。
- 追いつめられてにげることができない様子。
- 一つのことだけに集中する様子。
- だれからもきられないように、うまく付き合う人。
- 年齢や性別に関係なく、あらゆる人。

漢字の学習13

線部の漢字は読みをひらがなで書き、かたかなは漢字に直しなさい。

- 貨物列車が走る。
- 照明を当てる。
- クイズ番組の司会者。
- 体温が低下する。
- 投票日をむかえる。
- 考えを改める。
- 給付金を受けとる。
- 包帯をまく。
- このプールは浅い。
- 器に食べ物をよそう。
- ザイリヨウを用意する。
- シケンを受ける。
- キセツがうつりかわる。
- モクヒヨウを定める。
- 町のシキテンに出る。
- 人とワカれる。
- 首位をアラソう。
- ウミベを歩く。
- 様子が少しヘンだ。
- 観衆のシッシヨウをかう。